

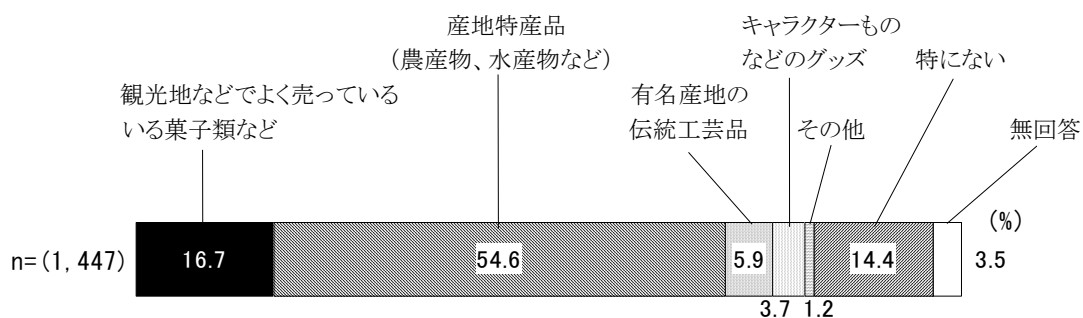
3 川崎市のおみやげについて

3-1 もらってうれしかった「おみやげ」

◎ 「産地特産品（農産物、水産物）」が54.6%で最も多い

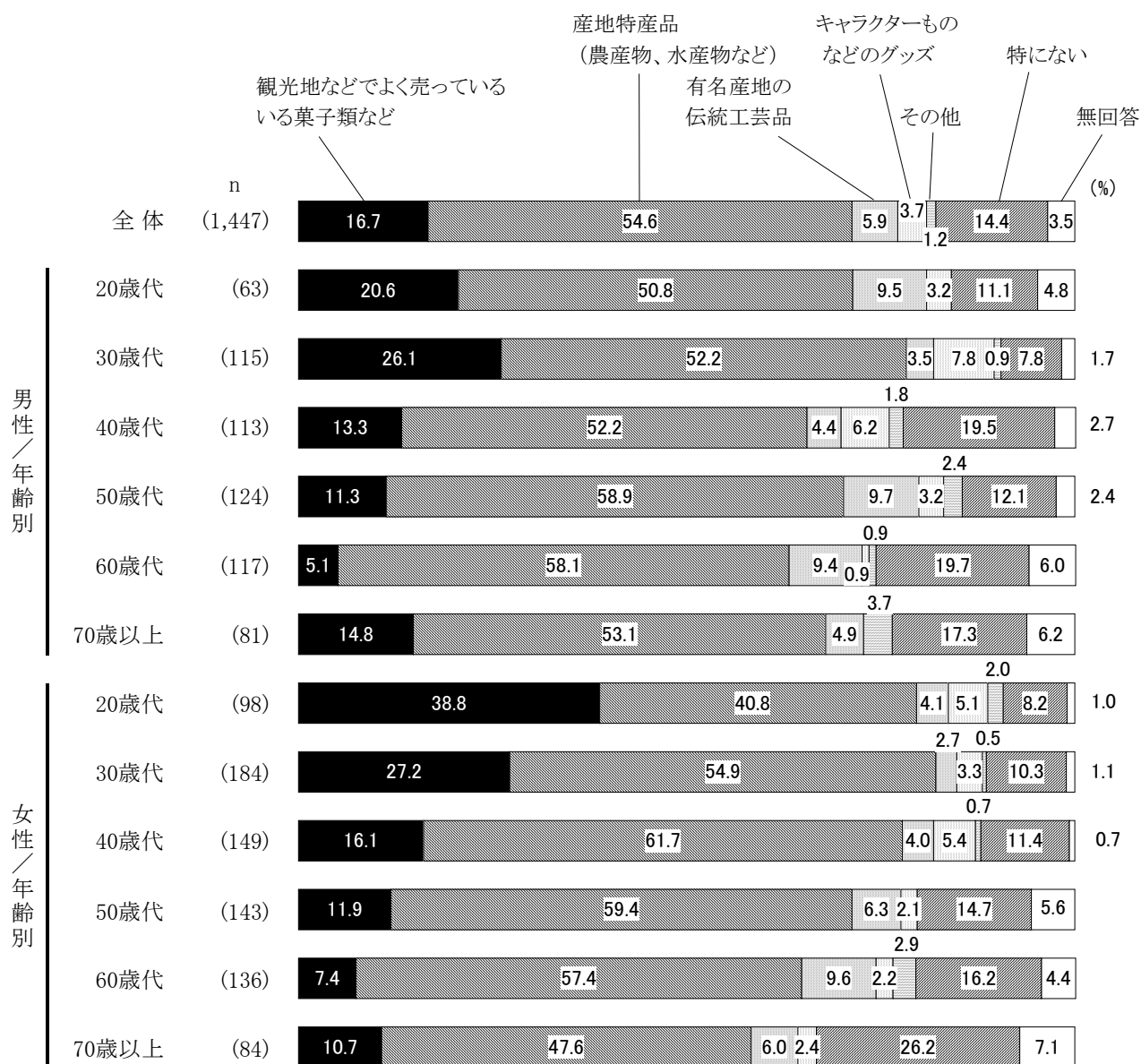
問13 これまでに、もらってうれしかった「おみやげ」はどのようなものですか。（○は1つ）

図表3-1 もらってうれしかった「おみやげ」



もらってうれしかった『おみやげ』は、「産地特産品（農産物、水産物など）」が54.6%で最も多く、次いで「観光地などでよく売っている菓子類など」（16.7%）となっている。他の項目は1割未満となっている。（図表3-1）

図表3-2 もらってうれしかった「おみやげ」 (性／年齢別)



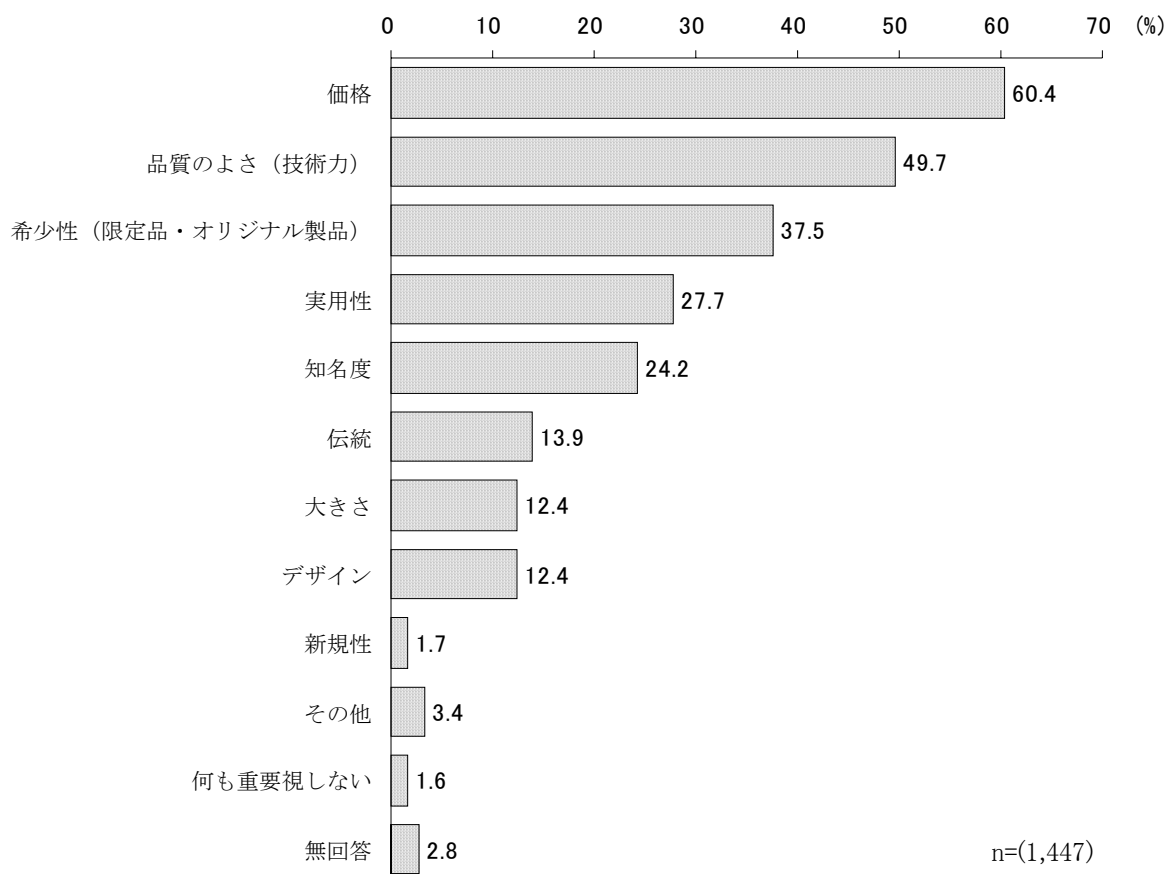
性／年齢別では、「産地特産品（農産物、水産物など）」は、いずれの年齢層でも最も多く、特に女性の40歳代が6割台前半と多くなっている。「観光地などでよく売っている菓子類など」は、若年層で割合が高く、女性の20歳代では約4割となっている。（図表3-2）

3-2 「おみやげ」を選ぶときに重要視すること

◎ 価格が60.4%で最も多い

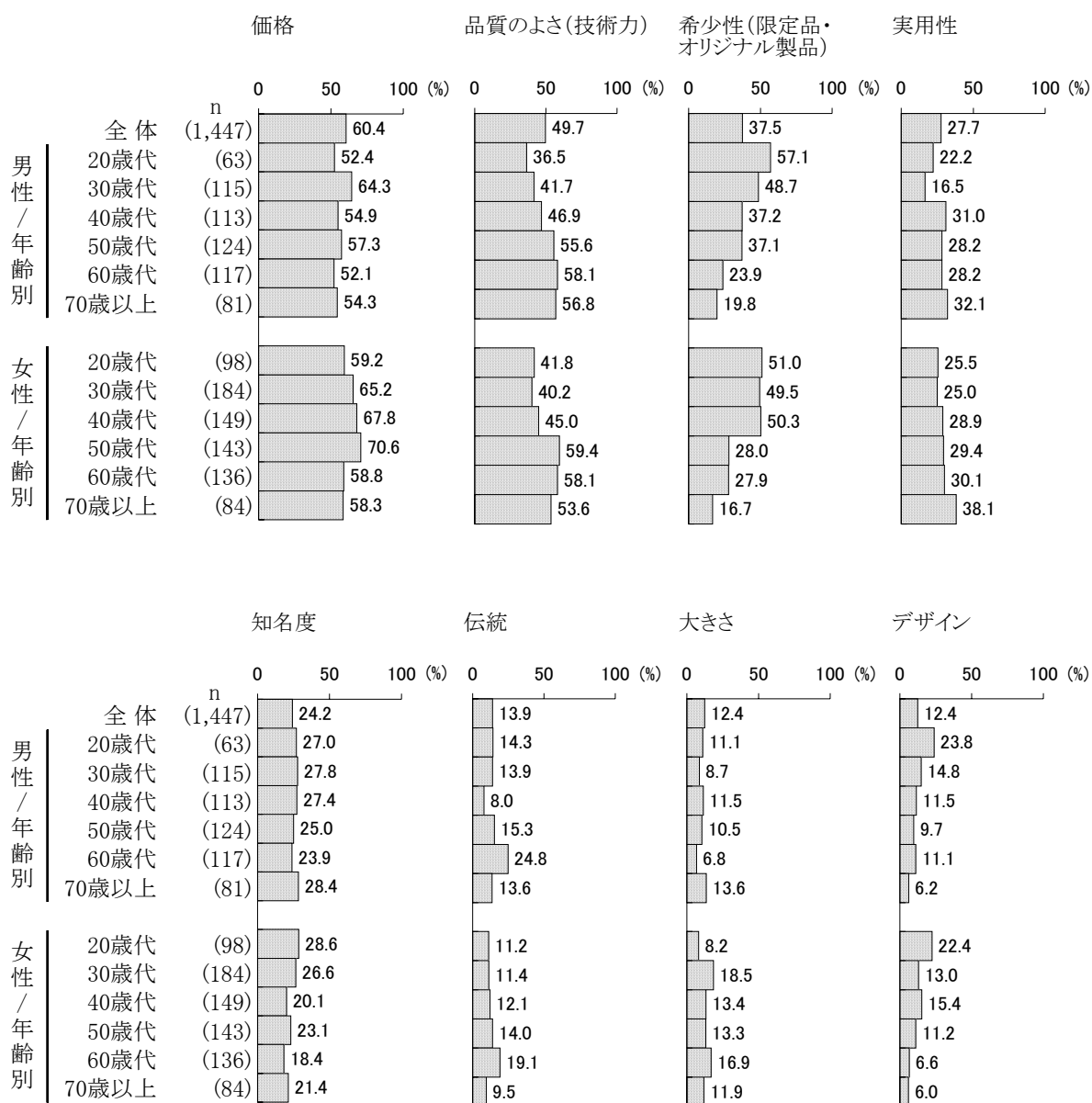
問 14 「おみやげ」を選ぶときに、何を重要視しますか。(○は3つまで)

図表 3-3 「おみやげ」を選ぶときに重要視すること



『おみやげ』を選ぶときに重要視することは、「価格」が60.4%で最も多くなっている。以下「品質のよさ (技術力)」(49.7%)、「希少性 (限定品・オリジナル製品)」(37.5%)、「実用性」(27.7%)、「知名度」(24.2%) と続いている。(図表 3-3)

図表 3-4 「おみやげ」を選ぶときに重要視すること (性／年齢別、上位8項目)



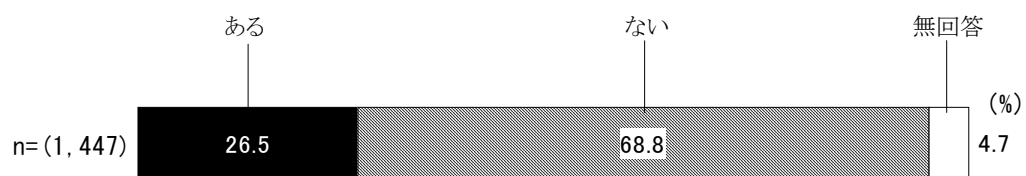
性／年齢別では、「価格」は、男性の30歳代、女性の30歳代～50歳代が6割半ば～約7割で多くなっている。「品質のよさ(技術力)」は、男女ともに40歳代までは、市全体を下回っているが、50歳代以上になると市全体を上回っている。「希少性(限定品・オリジナル製品)」は、男性の20歳代が5割台半ば、男性の30歳代、女性の20歳代～40歳代が5割前後で多くなっている。男性の50歳代以下、女性の40歳代以下と多くの世代で実用性より希少性の割合が上回っている。(図表3-4)

3－3 「川崎市のおみやげ」と思うものがあるか

◎ 「ある」は26.5%

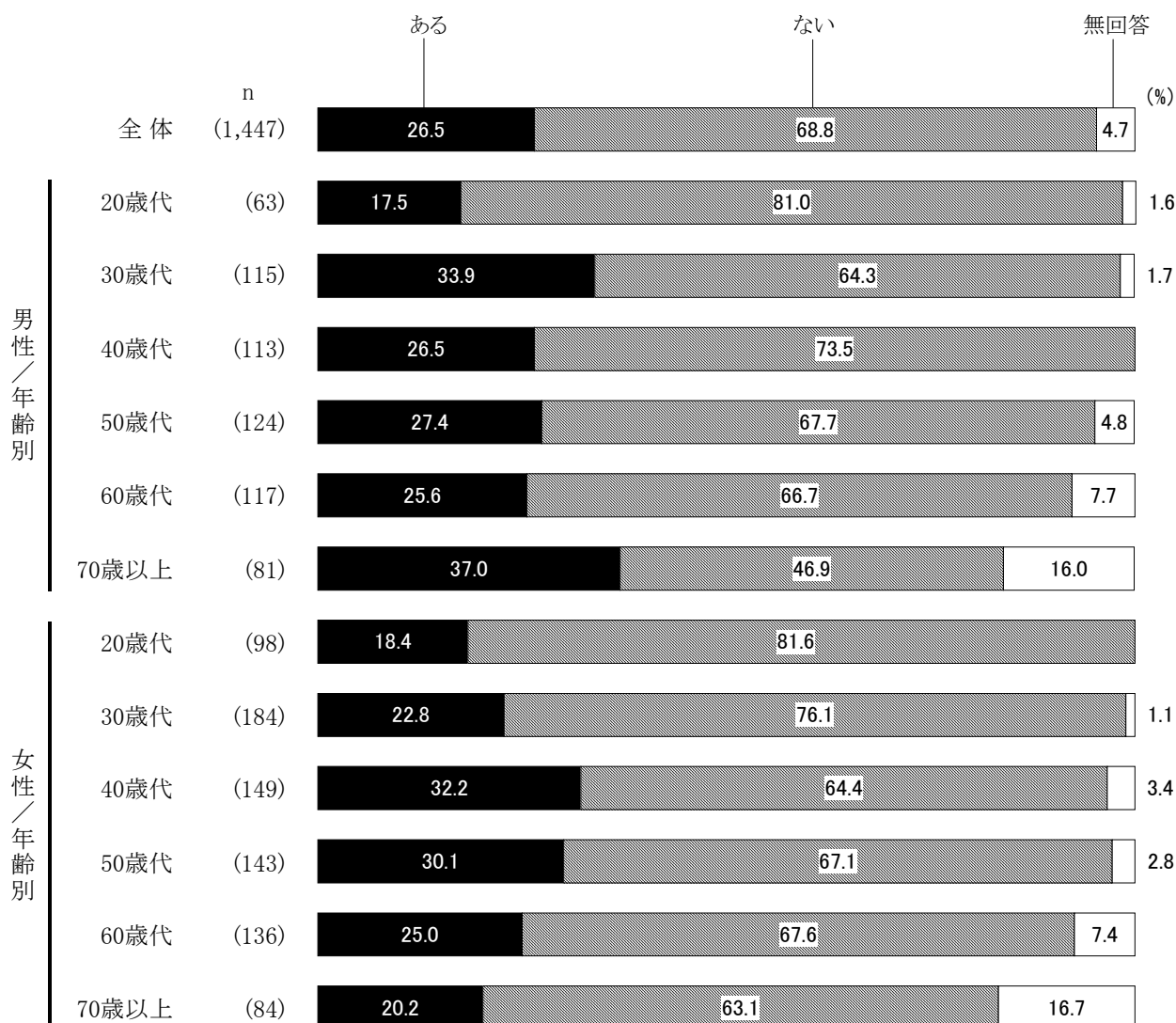
問 15 現在「川崎市のおみやげ」と思うものはありますか。(○は1つ)

図表 3－5 「川崎市のおみやげ」と思うものがあるか



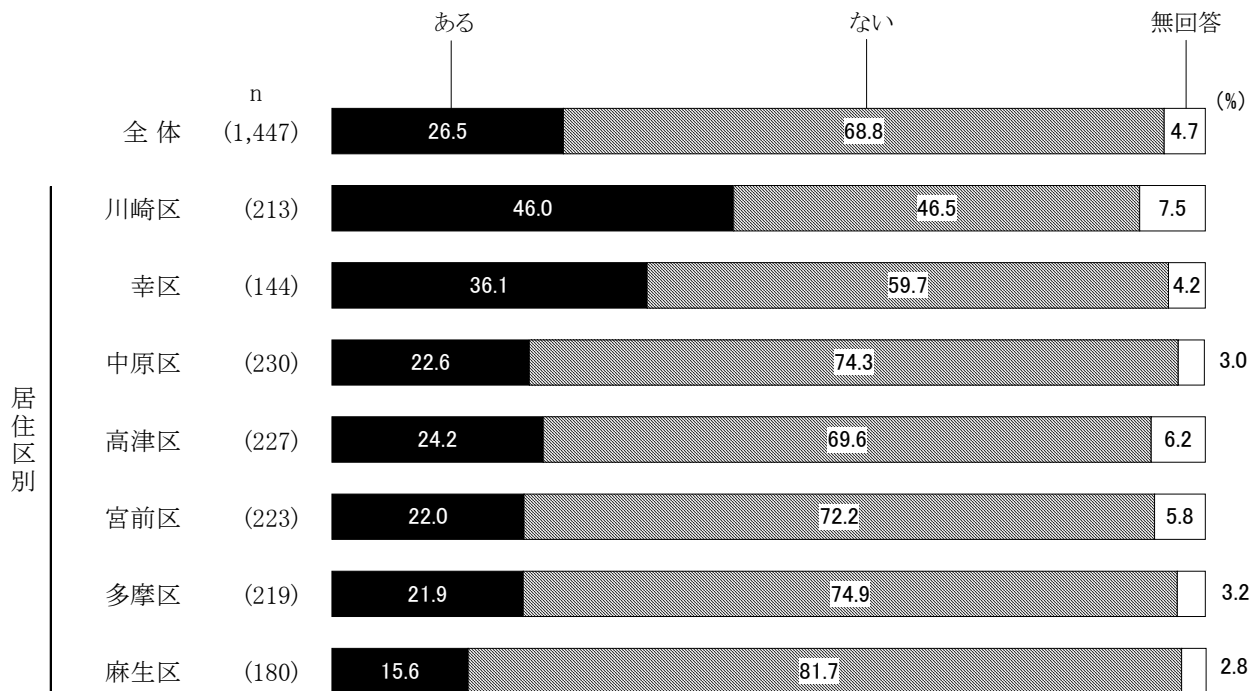
『川崎市のおみやげ』と思うものが「ある」人は26.5%、「ない」人は68.8%となっている。
(図表 3－5)

図表 3－6 「川崎市のおみやげ」と思うものがあるか (性／年齢別)



性／年齢別では、「ある」は、男性の30歳代と70歳以上、女性の40歳代～50歳代が3割台となっている。「ない」は、男女ともに20歳代が8割台前半と多く、男性の70歳以上が4割台半ばと最も少なくなっている。(図表3－6)

図表 3－7 「川崎市のおみやげ」 と思うものがあるか (居住区別)



居住区別では、「ある」は、川崎区が4割台半ば、幸区が3割台半ばで他の居住区と比べて多くなっている。(図表3－7)

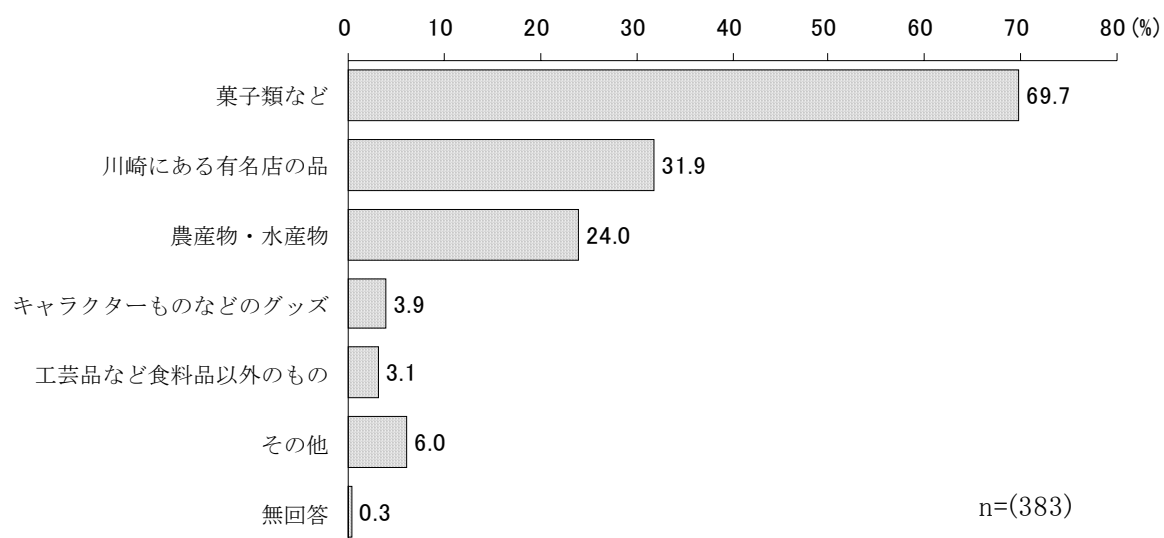
3-4 「川崎市のおみやげ」と思うもの

◎ 「菓子類など」が69.7%で最も多い

(問 15 で、現在「川崎市のおみやげ」と思うものが「1. ある」と答えた方にうかがいます。)

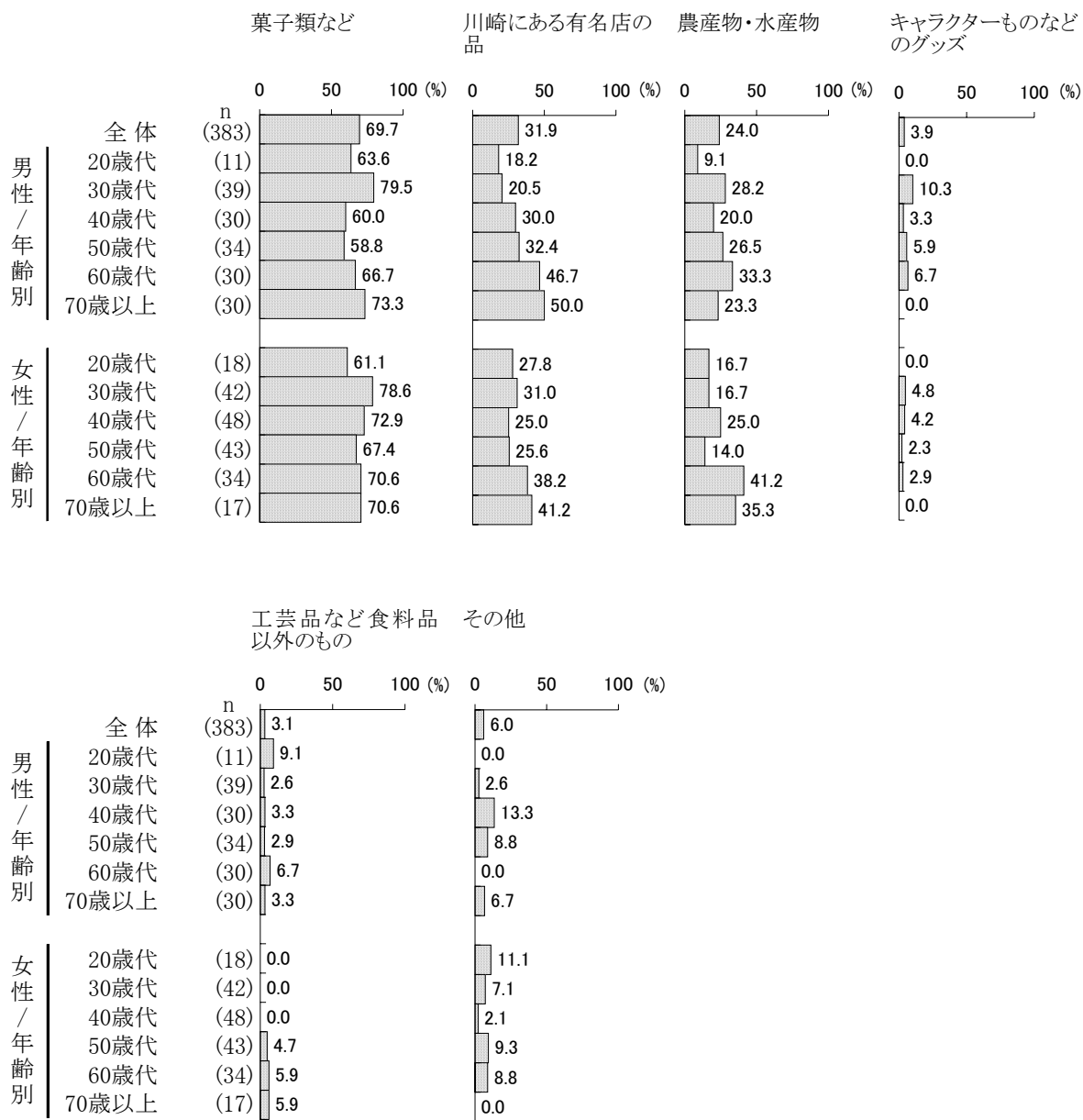
問 15-1 それはどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

図表 3-8 「川崎市のおみやげ」と思うもの



『川崎市のおみやげ』と思うものは、「菓子類など」が69.7%で最も多くなっている。以下「川崎にある有名店の品」(31.9%)、「農産物・水産物」(24.0%)と続いている。(図表3-8)

図表 3-9 「川崎市のおみやげ」と思うもの (性／年齢別)



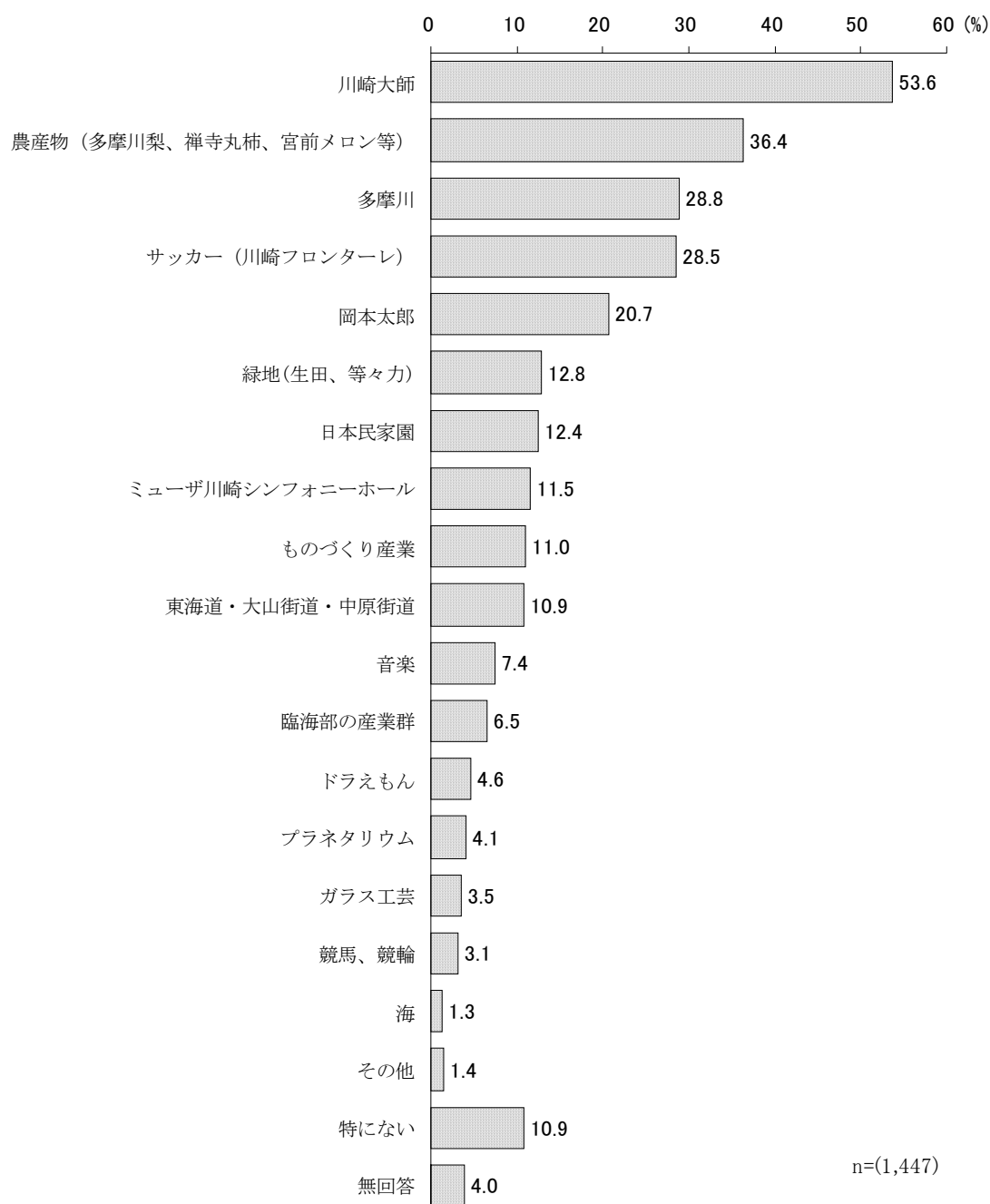
性／年齢別では、「菓子類など」は、男女ともに30歳代が約8割で多くなっている。「川崎にある有名店の品」は、男性の60歳代以上が5割又は5割近くと多くなっている。「農産物・水産物」は、男女ともに60歳代が最も多く、特に女性の60歳代が4割台前半となっている。(図表3-9)

3-5 「川崎市のおみやげ」のテーマとしてふさわしいもの

◎ 「川崎大師」が53.6%で最も多い

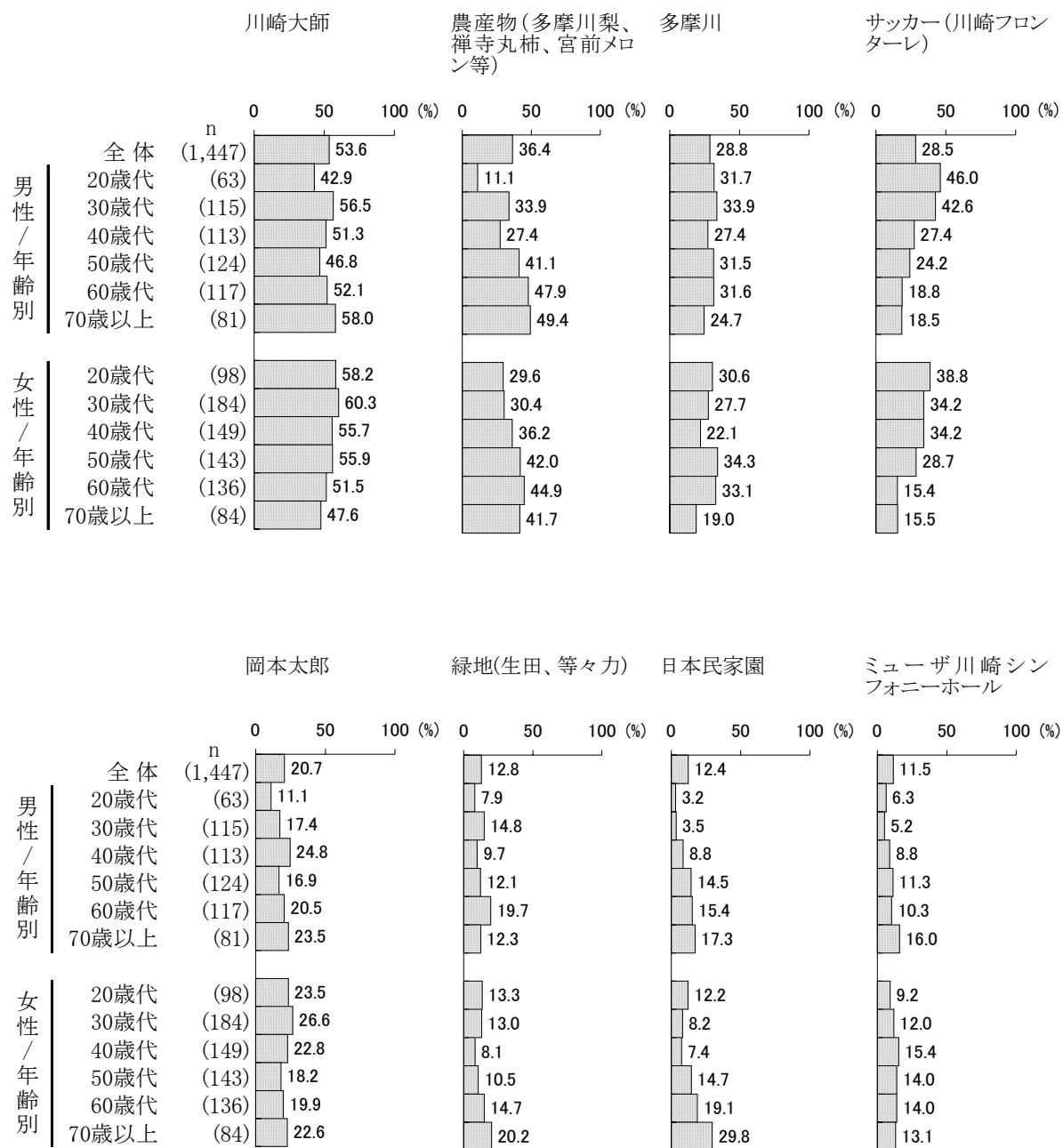
問 16 「川崎市のおみやげ」のテーマとして、具体的にどのようなものがふさわしいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 3-10 「川崎市のおみやげ」のテーマとしてふさわしいもの



『川崎市のおみやげ』のテーマとしてふさわしいものは、「川崎大師」が53.6%で最も多くなっている。以下「農産物 (多摩川梨、禅寺丸柿、宮前メロン等)」(36.4%)、「多摩川」(28.8%)、「サッカー (川崎フロンターレ)」(28.5%)、「岡本太郎」(20.7%)と続いている。他の項目では、1割台以下となっている。(図表 3-10)

図表 3-11 「川崎市のおみやげ」のテーマとしてふさわしいもの (性／年齢別、上位8項目)



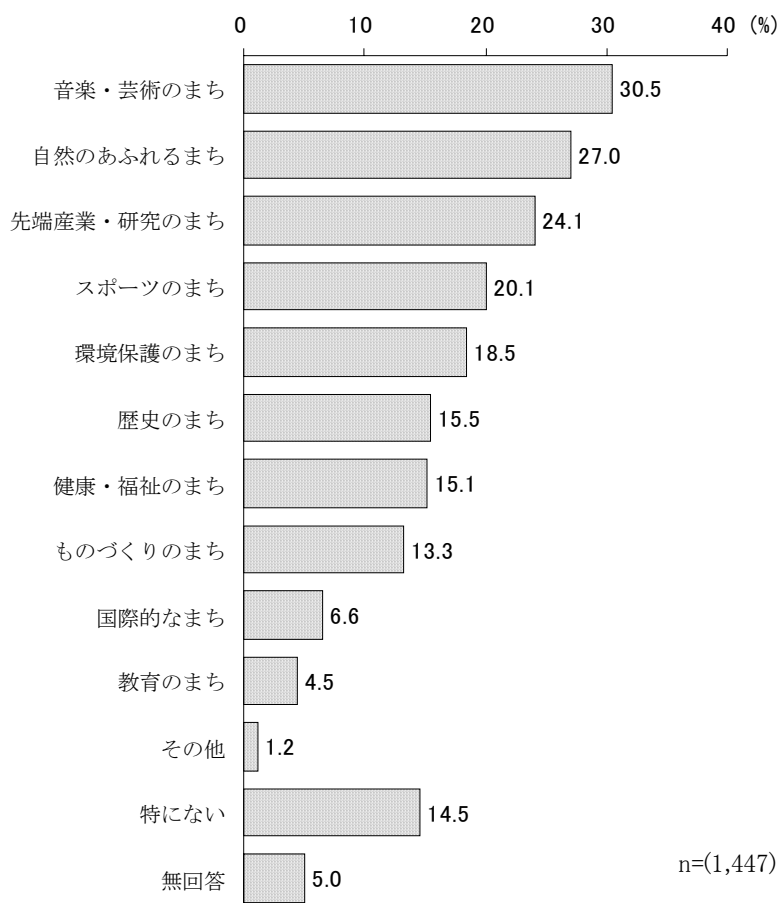
性／年齢別では、「川崎大師」は、男性の30歳代、70歳以上、女性の20歳代～50歳代が5割台半ば～約6割と多くなっている。「農産物(多摩川梨、禅寺丸柿、宮前メロン等)」は、男女ともに50歳代以上が4割台となっている。「サッカー(川崎フロンターレ)」は、年齢が高くなるにつれ、割合が少なくなる傾向となっており、特に男性の20歳代が4割台半ば、男性の30歳代、女性の20歳代が4割前後と多くなっている。(図表3-11)

3-6 「川崎市のおみやげ」でアピールする将来の川崎市のイメージ

◎ 「音楽・芸術のまち」が30.5%で最も多い

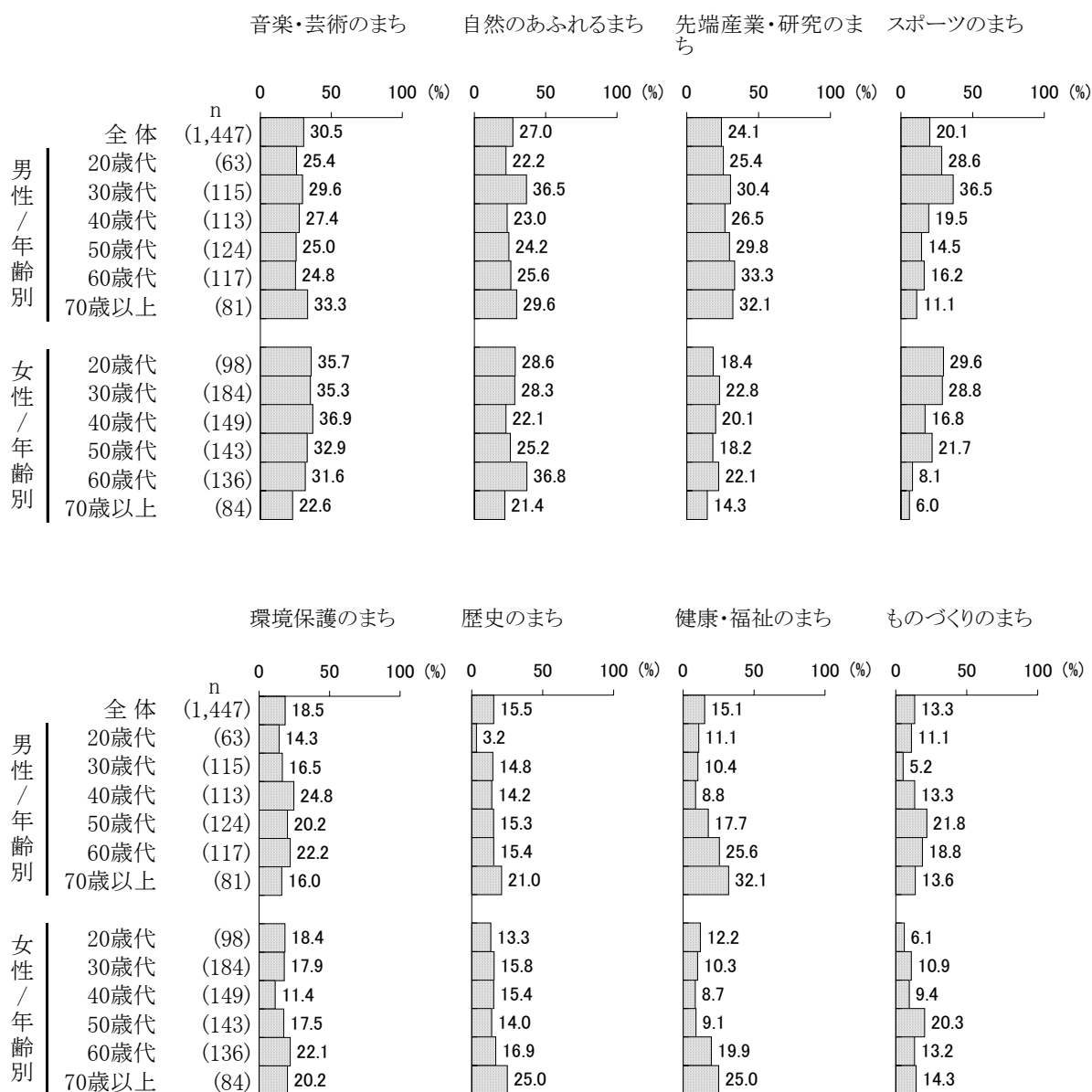
問 17 「川崎市のおみやげ」でアピールする将来の川崎市のイメージとして、どれがふさわしいと思いますか。(〇は3つまで)

図表 3-12 「川崎市のおみやげ」でアピールする将来の川崎市のイメージ



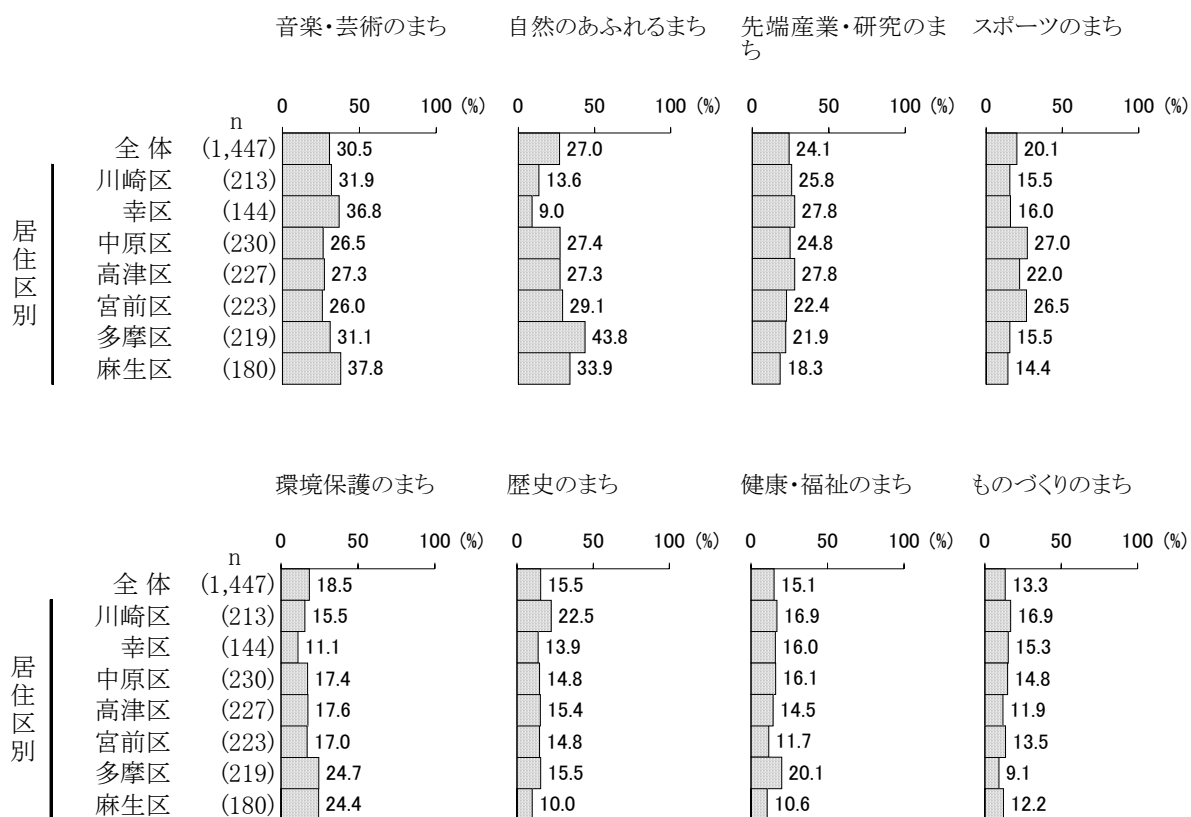
『川崎市のおみやげ』でアピールする将来の川崎市のイメージは、「音楽・芸術のまち」(30.5%)が約3割で最も多くなっている。以下「自然のあふれるまち」(27.0%)、「先端産業・研究のまち」(24.1%)、「スポーツのまち」(20.1%)、「環境保護のまち」(18.5%)、「歴史のまち」(15.5%)、「健康・福祉のまち」(15.1%)、「ものづくりのまち」(13.3%)と続いている。(図表3-12)

図表 3-13 「川崎市のおみやげ」でアピールする将来の川崎市のイメージ
(性／年齢別、上位 8 項目)



性／年齢別では、「音楽・芸術のまち」は、男女ともにいずれの年齢層でも2割～3割台となっている。「自然のあふれるまち」は、男性の30歳代、女性の60歳代が3割台半ばで多くなっている。「先端産業・研究のまち」は、全体的に女性より男性の方が多く、特に70歳以上では約2割の差で男性が多くなっている。(図表 3-13)

図表 3-14 「川崎市のおみやげ」でアピールする将来の川崎市のイメージ
(居住区別、上位 8 項目)



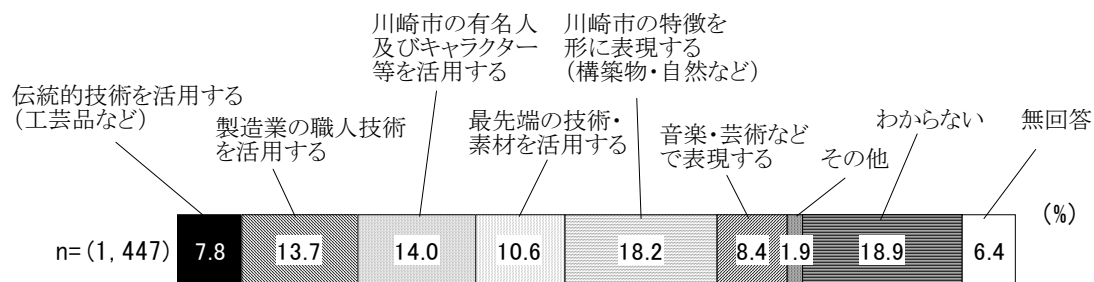
居住区別では、「音楽・芸術のまち」は、幸区、麻生区が3割台半ば～3割台後半で多くなっている。「自然のあふれるまち」は、多摩区が4割台前半、麻生区が3割台前半で多くなっているが、川崎区、幸区は、1割台以下となっている。(図表 3-14)

3-7 「川崎市のおみやげ」で「川崎らしさ」を表現する手段

◎ 「川崎市の特徴を形に表現する（構築物・自然など）」が 18.2%

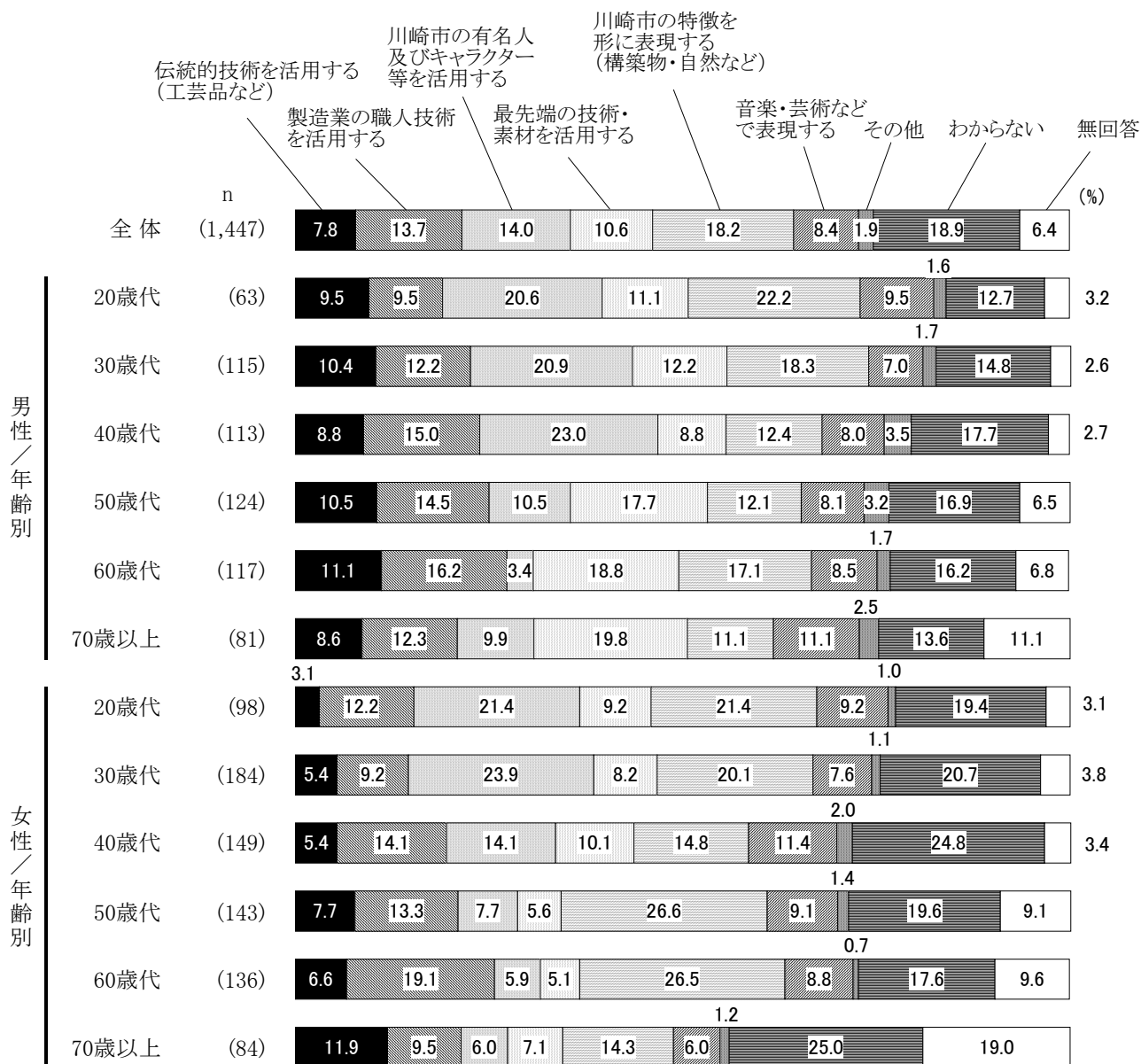
問 18 「川崎市のおみやげ」で「川崎らしさ」を表現する手段として、次のどれが最もふさわしいと思いますか。（○は1つ）

図表 3-15 「川崎市のおみやげ」で「川崎らしさ」を表現する手段



『川崎市のおみやげ』で『川崎らしさ』を表現する手段は、「川崎市の特徴を形に表現する（構築物・自然など）」（18.2%）が最も多く、以下「川崎市の有名人及びキャラクター等を活用する」（14.0%）、「製造業の職人技術を活用する」（13.7%）、「最先端の技術・素材を活用する」（10.6%）と続いている。（図表 3-15）

図表 3-16 「川崎市のおみやげ」で「川崎らしさ」を表現する手段 (性／年齢別)



性／年齢別では、「川崎市の特徴を形に表現する（構造物・自然など）」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の50歳代～60歳代が2割台半ばとなっている。「川崎市の有名人及びキャラクター等を活用する」は、男性の20歳代～40歳代、女性の20歳代～30歳代が2割台前半となっている。「製造業の職人技術を活用する」は、女性の60歳代が約2割となっている。（図表3-16）

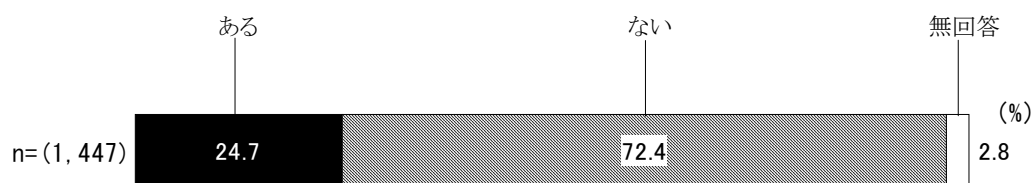
4 こども文化センターについて

4-1 こども文化センターの利用状況

◎ 「ある」が24.7%

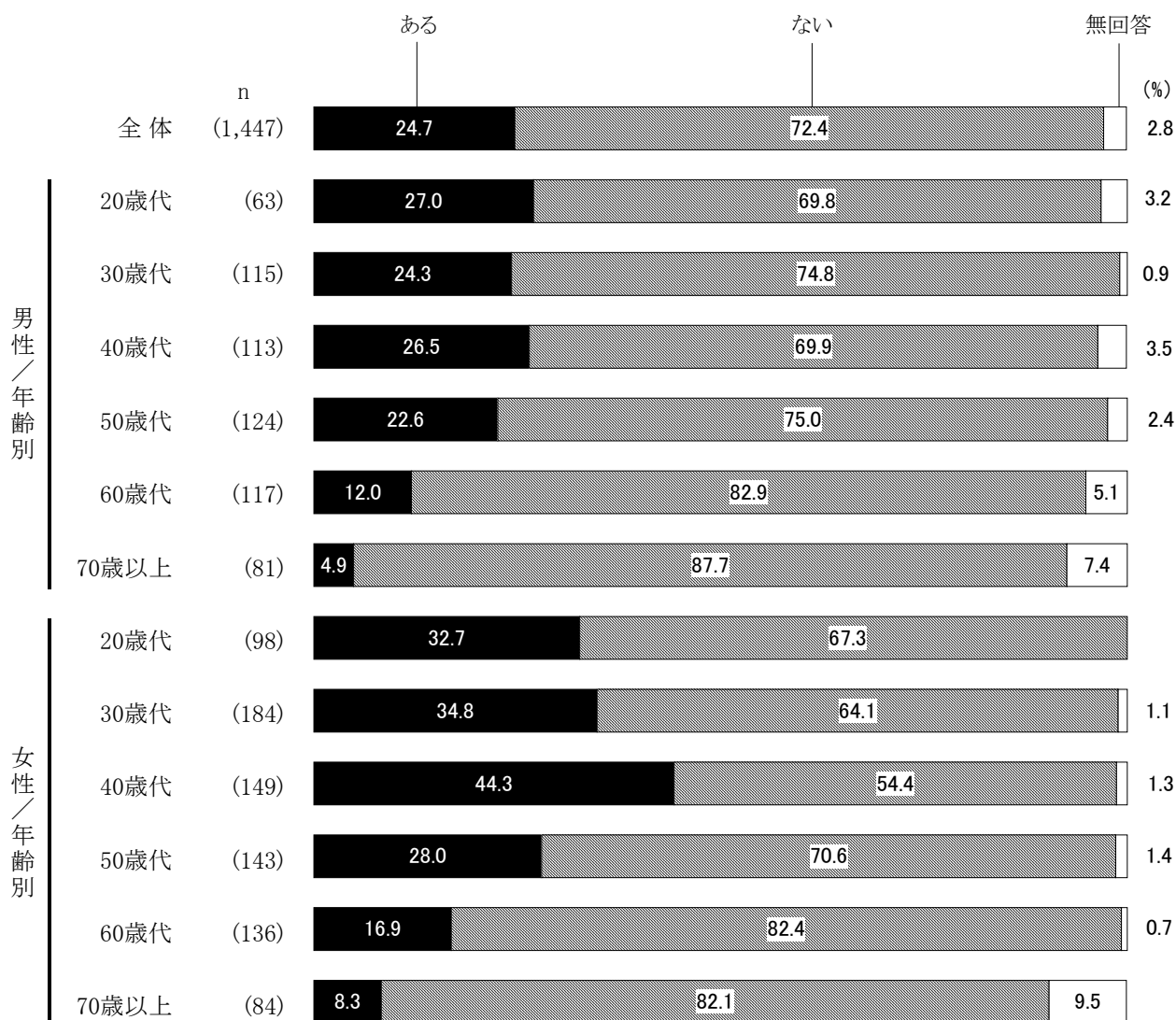
問 20 こども文化センターを利用したことがありますか。(○は1つ)

図表 4-1 こども文化センターの利用状況



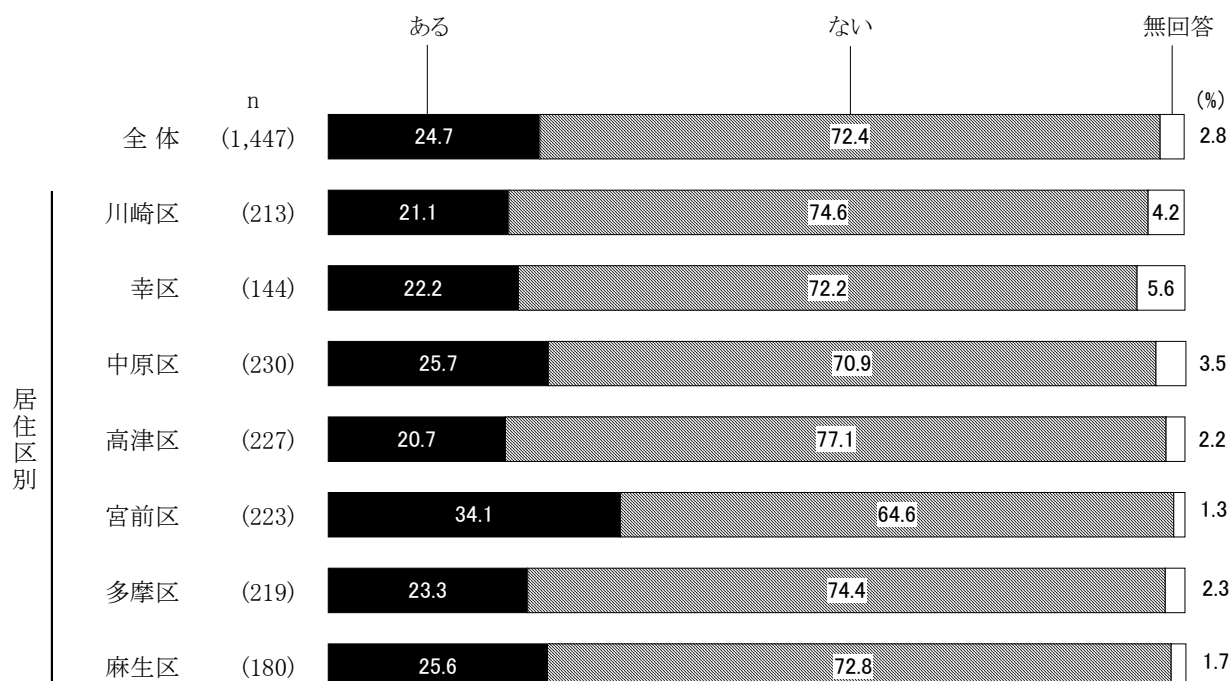
こども文化センターを利用したことが「ある」人は24.7%、「ない」人は72.4%となっている。(図表4-1)

図表 4-2 こども文化センターの利用状況 (性／年齢別)



性／年齢別では、「ある」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の40歳代が4割台半ばとなっている。一方、「ない」は、男女ともに60歳代以上が8割台前半～8割台後半で多くとなっている。(図表4-2)

図表 4－3 こども文化センターの利用状況 (居住区別)



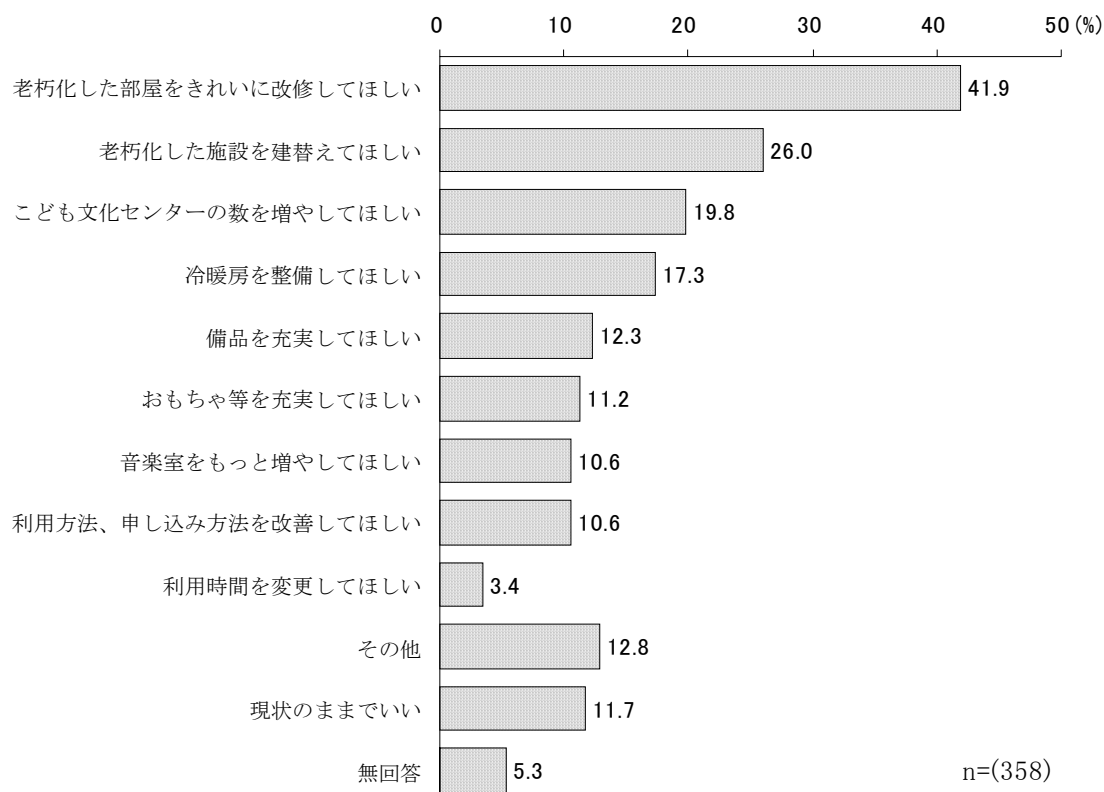
居住区別では、「ある」は、宮前区が3割台半ばで最も多く、市全体を約1割上回っている。他の区は2割台でほぼ市全体と同程度の割合となっている。(図表4－3)

4-2 こども文化センターに対する要望

◎ 「老朽化した部屋をきれいに改修してほしい」が41.9%で最も多い

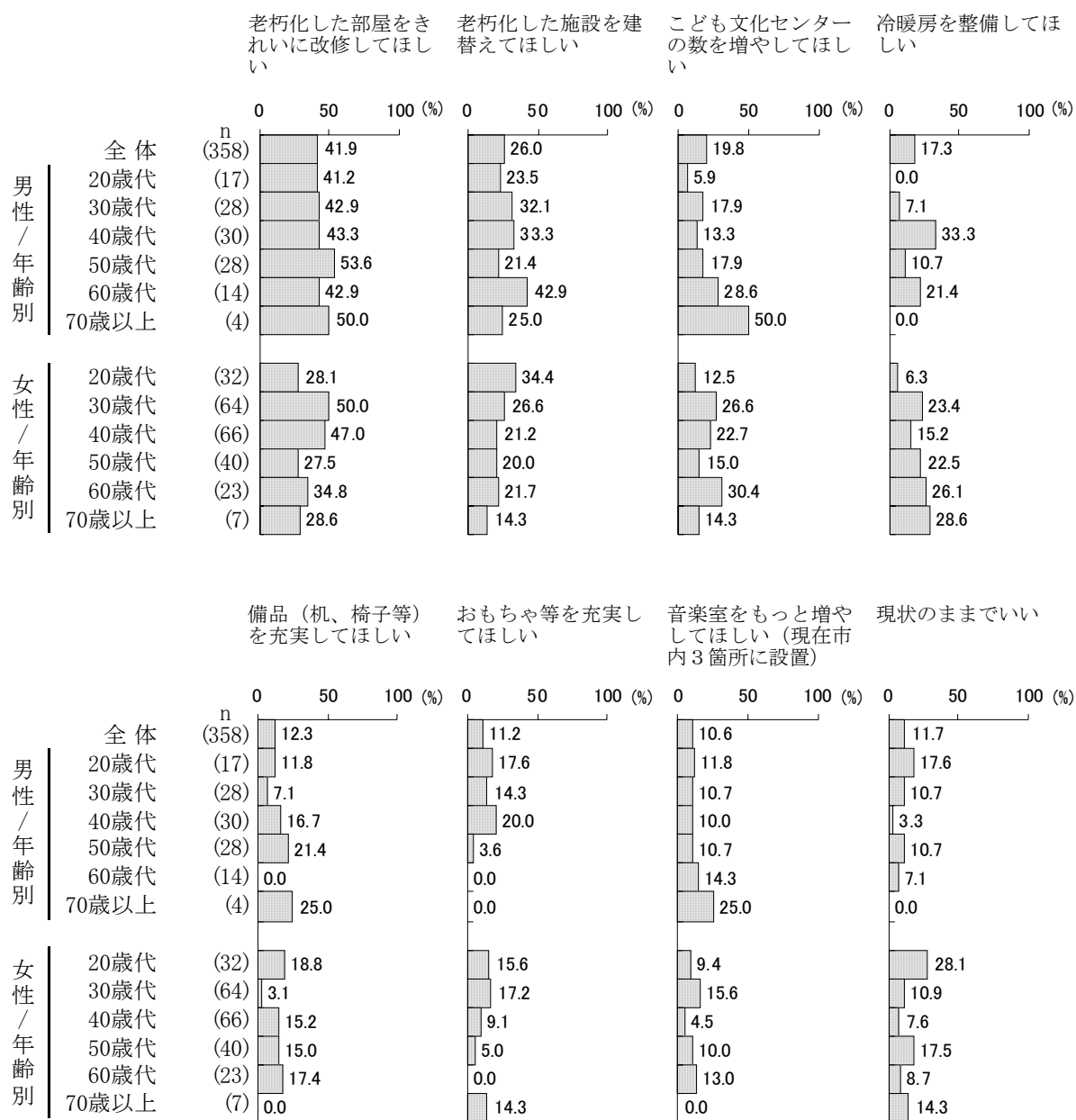
(問 20 で、こども文化センターを利用したことが「1. ある」と答えた方にうかがいます。)
問 20-1 現在のこども文化センターに対する要望はありますか。(○は3つまで)

図表 4-4 こども文化センターに対する要望



こども文化センターに対する要望は、「老朽化した部屋をきれいに改修してほしい」が41.9%で最も多くなっている。以下「老朽化した施設を建替えてほしい」(26.0%)、「こども文化センターの数を増やしてほしい」(19.8%)と続いている。また、他の項目では、「利用時間を変更してほしい」(3.4%)を除き、概ね1割台となっている。(図表4-4)

図表4-5 こども文化センターに対する要望 (性／年齢別)



※性／年齢別では、基数が少ないため、図表を参考程度にとどめる。（図表4-5）

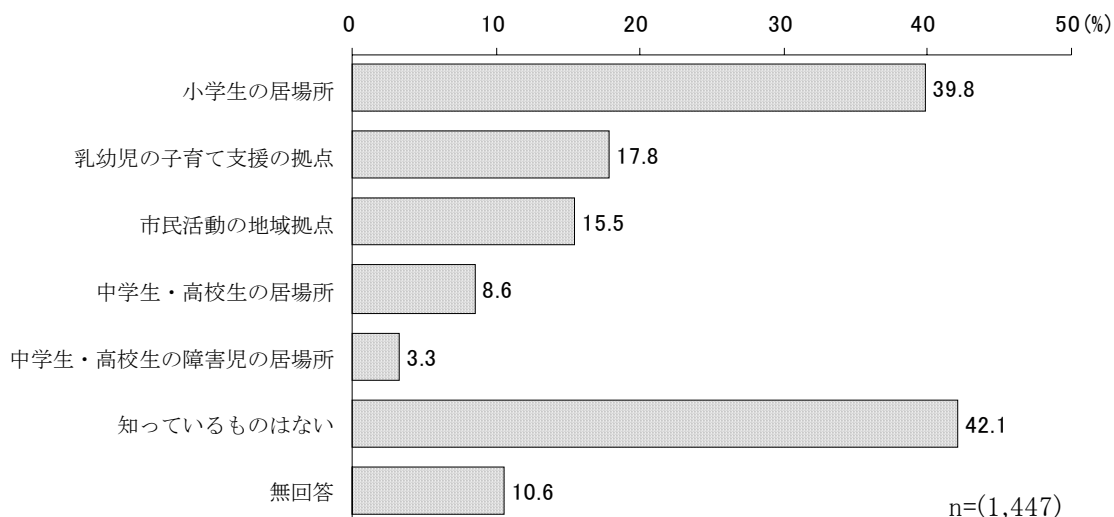
4-3 こども文化センターの運営内容の認知状況

◎ 「小学生の居場所」が39.8%

問 21 次のこども文化センターの運営内容を知っていますか。

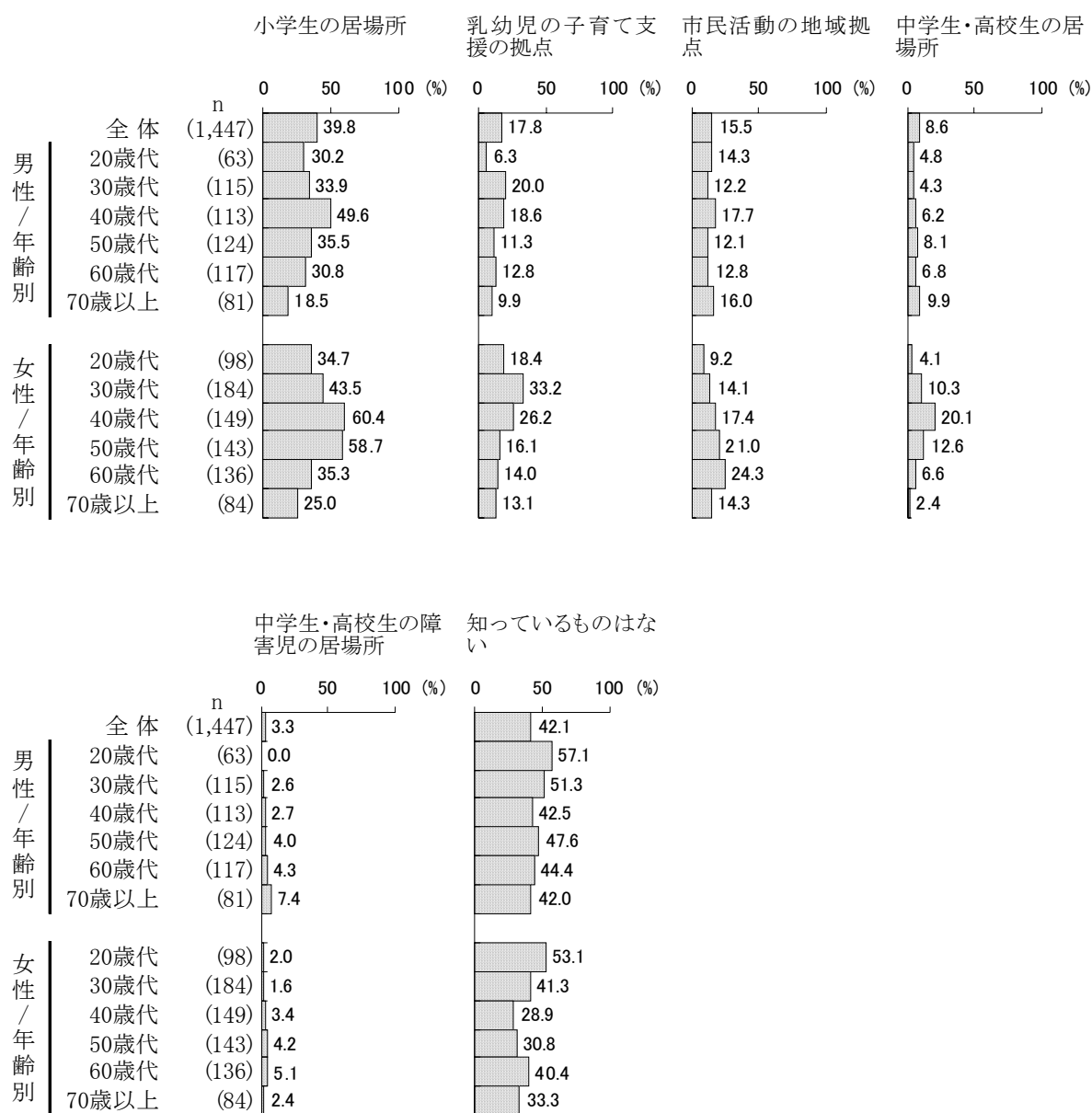
(あてはまるものすべてに○)

図表 4-6 こども文化センターの運営内容の認知状況



こども文化センターの運営内容の認知状況は、「小学生の居場所」が39.8%で最も多くなっている。以下「乳幼児の子育て支援の拠点」(17.8%)、「市民活動の地域拠点」(15.5%)と続いている。一方、「知っているものはない」は、42.1%と4割を超えている。(図表4-6)

図表４－７ こども文化センターの運営内容の認知状況 (性／年齢別)



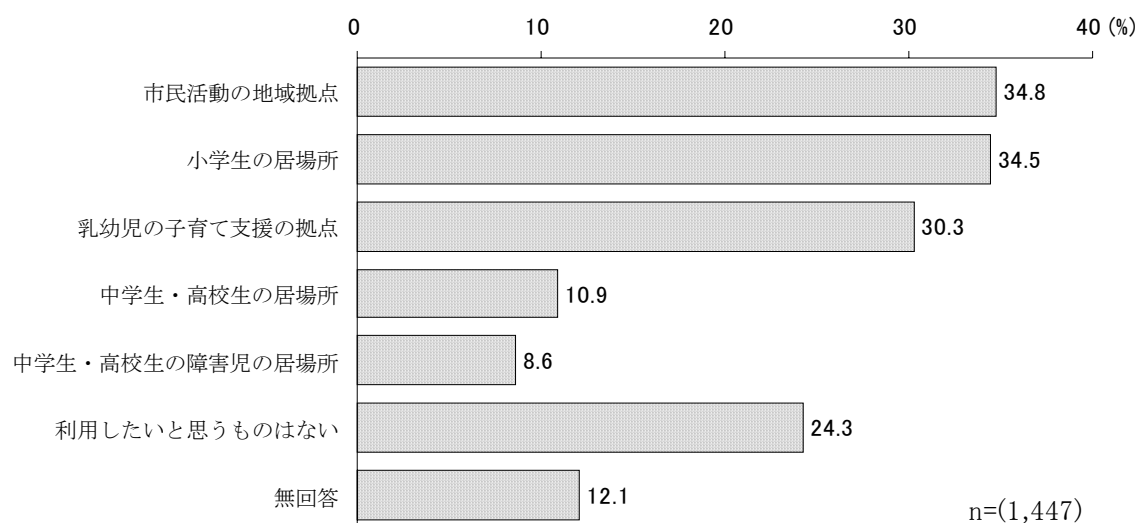
性／年齢別では、「小学生の居場所」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の40歳代～50歳代が約6割で他の年代や項目に比べて非常に多くなっている。(図表４－７)

4-4 こども文化センターの利用目的

- ◎ 「市民活動の地域拠点」(34.8%)、「小学生の居場所」(34.5%)、「乳幼児の子育て支援の拠点」(30.3%)が3割台

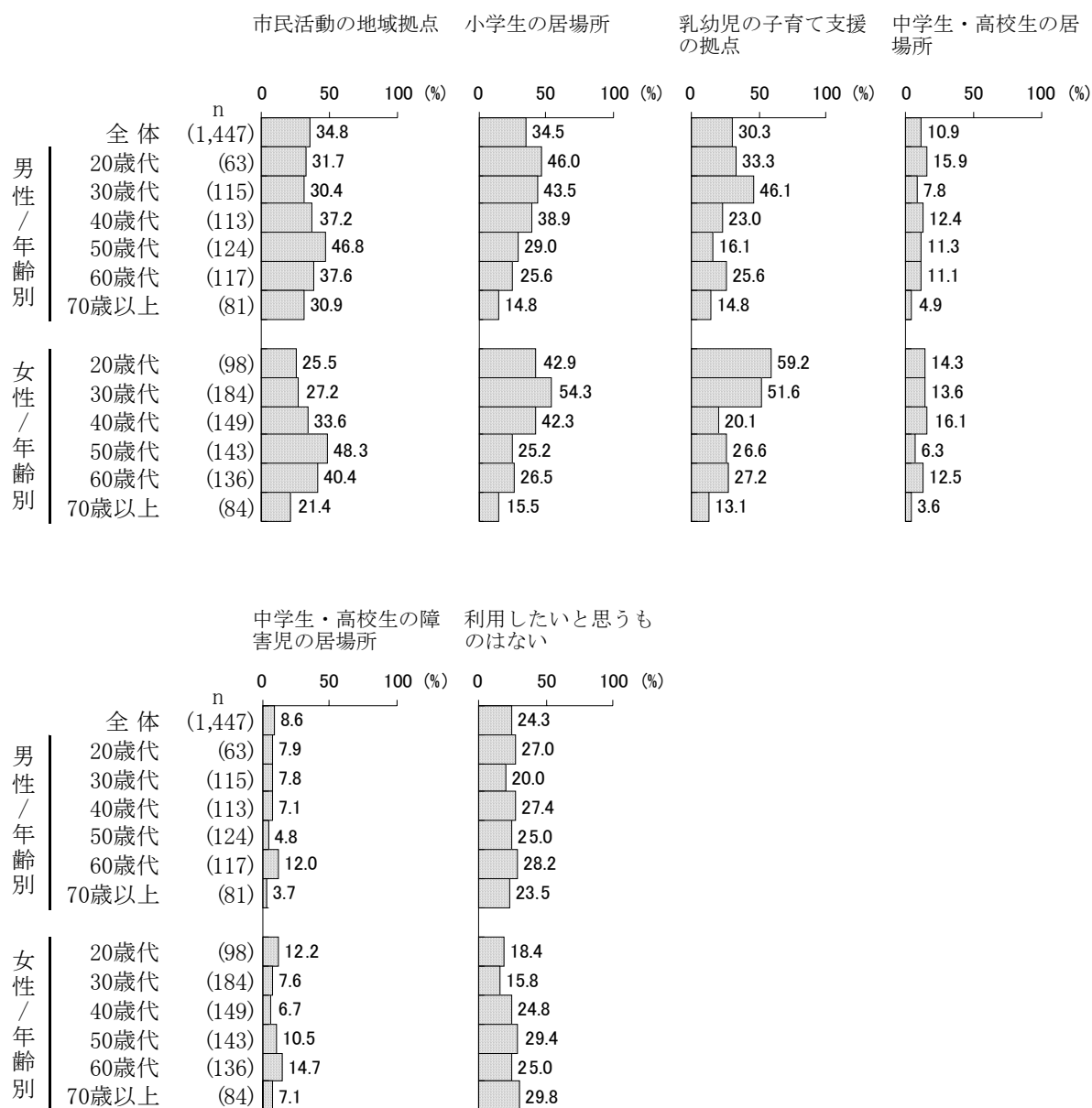
問 22 自分を含め家族が、どのような目的でこども文化センターを利用したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

図表 4-8 こども文化センターの利用目的



こども文化センターの利用目的は、前問(問 21 運営内容の認知状況)で割合が少なかった「市民活動の地域拠点」(34.8%)が「小学生の居場所」(34.5%)、「乳幼児の子育て支援の拠点」(30.3%)と並んで3割台と多くなっている。(図表 4-8)

図表 4-9 こども文化センターの利用目的 (性／年齢別)



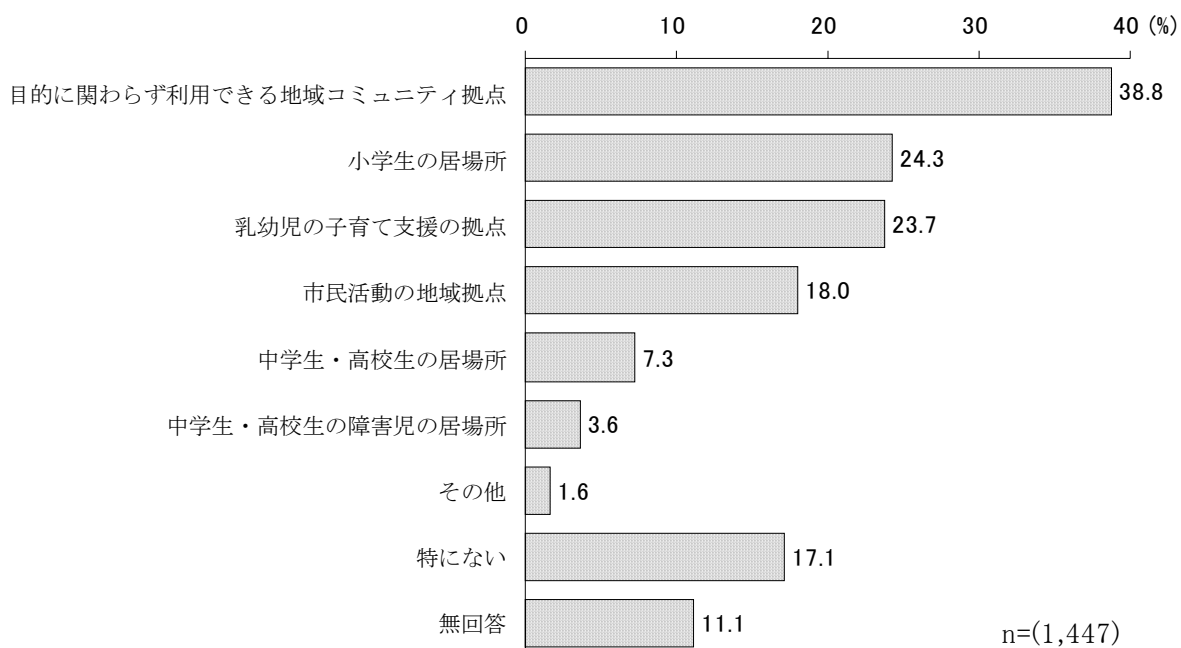
性／年齢別では、「市民活動の地域拠点」は、男女ともに50歳代が4割台半ば～4割台後半で最も多くなっている。「小学生の居場所」は、女性の30歳代が5割台半ばで多く、男女ともに70歳以上が1割台半ばで少なくなっている。「乳幼児の子育て支援の拠点」は、男性の30歳代が4割台半ば、女性の20歳代～30歳代が5割台で多くなっている。(図表4-9)

4-5 こども文化センターの運営内容で充実した方がよいもの

◎ 「目的に関わらず利用できる地域コミュニティ拠点」が38.8%

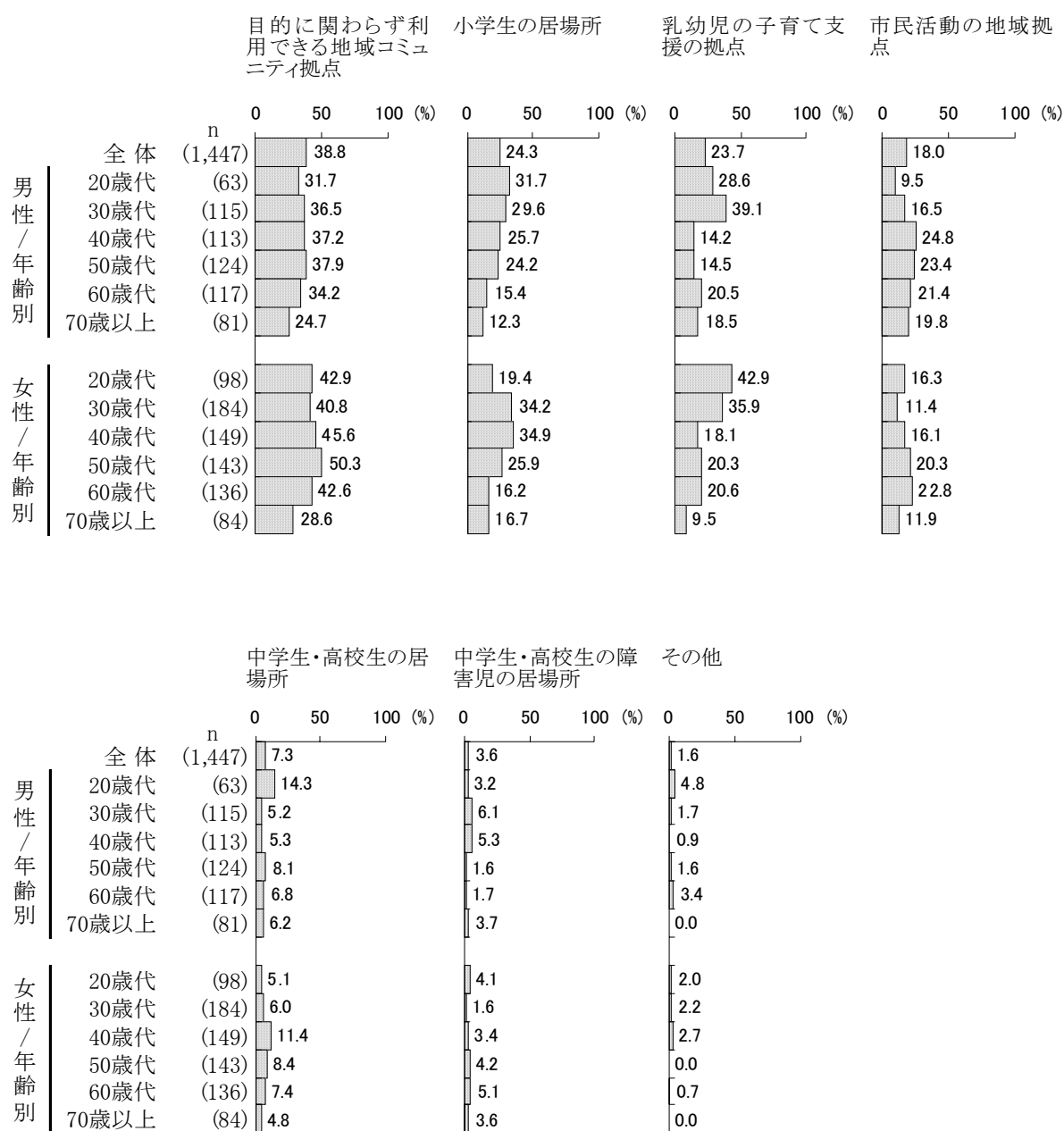
問 23 こども文化センターの運営内容のうち、今後、充実した方がよいと思うものは何ですか。(〇は2つまで)

図表 4-10 こども文化センターの運営内容で充実した方がよいもの



こども文化センターの運営内容で充実した方がよいものは、「目的に関わらず利用できる地域コミュニティ拠点」が38.8%で最も多くなっている。以下「小学生の居場所」(24.3%)、「乳幼児の子育て支援の拠点」(23.7%)、「市民活動の地域拠点」(18.0%)と続いている。(図表4-10)

図表 4-11 こども文化センターの運営内容で充実した方がよいもの (性／年齢別)



性／年齢別では、「目的に関わらず利用できる地域コミュニティ拠点」は、全体的に男性より女性の方が多く、特に女性の50歳代が約5割で多くなっている。「小学生の居場所」は、男性では、年齢が高くなるにつれ、割合が少なくなる傾向となっている。女性の20歳代では、同年代の男性と比べて1割以上少なくなっている。「乳幼児の子育て支援の拠点」は、男性の30歳代が約4割、女性の20歳代～30歳代が3割台半ば～4割台前半と多くなっている。(図表4-11)